

令和5年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 西和佐小 学校
校長氏名	高石 知都
作成日	令和 6年 2月 1日

1 教育目標

最後までよく考え、共によりよく生き、健やかな心と身体を養う子供の育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査で正當数の県平均値を目指す ・児童がわかる授業、児童主体の授業を実践する(教員90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が「楽しい」と感じる(児童90%以上) ・「ルールやマナーを守って授業を受けることができた」(児童80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝ごはんを食べてくる(児童95%以上) ・体力テストの平均値を県平均以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子供の活動の様子をわかりやすく伝えていく」(保護者90%以上) ・地域への情報発信が行えた(保護者90%以上・地域の方等の声)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな学力 ◎児童主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎人権・同和教育を推進するとともに、人権意識の高揚に努める。 ◎道徳教育を柱とした教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な生活習慣の確立 ◎体力向上の推進 ○危機回避能力の育成 ○人間の体を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域の教育資源や人材を活用しながら交流活動を行う ◎幼・小接続の推進 ○ホームページを充実させ情報発信
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○授業では、目標や課題を明確にし、自分の考えを表現する価値を取り入れる。また、自分の学びをまとめ振り返らせる ○「西和佐っ子タイム」「チャレンジタイム」の時間を活用し、基礎学力の定着を図る ○国語力の強化、1年から6年までの目標を設定し「聞く力」「読む力」「書く力」の積み重ねに取り組む。 ○保護者の協力のもと家庭学習の定着を図る ○読書の楽しさを感じさせ、進んで読書するようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と児童のよさを共有しながら児童を心豊かに育てる ○「特別の教科 道徳」で児童が考え話し合う活動を大切にしている ○いじめアンケートを複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める ○情報モラルやネット社会に潜む危険について、保護者と共に学ぶ機会をもつ ○各行事において児童が主体的に関わる機会をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨する ○体育科での活動時間を多く取り入れるように工夫する ○体を動かすことの楽しさを伝え、丈夫な体を作るためにはしっかり運動することが大切であることを学級指導している。 ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する ○「保健」の教科学習や保健行事を行なうなかで、自分の体について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の少しでも良い様子を保護者に伝えていく ○教育講演会等を開催し、保護者の子育てや教育に対する意識を高める ○地域の自然や文化を積極的に活用する ○地域の方々や関連した方々をゲストティーチャーとして依頼し、地域学習を推進する ○幼小連携の充実を図る ○各種便りやホームページなどを通して積極的に情報を発信する
取組の結果と課題(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の全国学力調査では国語科は県・全国平均と同じであった。しかし、記述問題は内容的には概ね正解できていても、条件に合わせて正確に書く力が弱い。一定の文章量を読み切ることができない。意味を理解して書くことに課題が残る ・算数科では県や全国平均よりも1ポイント低いという結果であった。情報量が多かったり、複数の資料を活用したりすることはあきらめてしまう傾向にある ・4・5年生の和歌山県学習到達度調査においては、国・算・理いずれも4点～5点県の平均以上であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和学習を毎年行っていて、地域の方等をお招きし、戦争中の暮らしについて伺ったり、和歌山の空襲についてお話しいただいた。平和の大切さ、命の大切さを学んだ。 ・「特別の教科 道徳」の時間では、人権についても学習している。 ・スマートフォンの利用は年々低年齢化している。少年センターの方から、学年に応じた情報モラルについての授業を、学年に応じて全学年に行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性を学級指導するとともに、保護者にも学校だよりや保健だよりを通じてお知らせしている。 ・運動場ではドッジボールや遊具での遊び、目標を決めてなわとびをする姿が見られた。 ・避難訓練では、地震から火災、地震から津波、不審者の3回行った。今年初めの能登半島地震のことなどに触れ、和歌山にもいつ大きな地震が起こるかわからないので、備えの必要性を指導した。 ・1年生から6年生まで心身ともに大きく成長する。その変化に対応し向き合える子供にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを地域の回覧で発信している。 ・ホームページで学校、学級のことを発信している ・3年生が「ふれあい交流会」で地域の方々や交流している。 ・休日参観にて、創立150周年おめでとう集会を執り行うことができた。 ・幼小小教員が互いに授業を参観し合ったり、互いを理解し合うための時間をとった。小学校への説教をなだらかにし小1プロブレムの解消に役立てたい。今年度はさらに保育所とも連携をとりたくと考えている。
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい授業」、「わかる授業」をめざして、教師たちが向上心を持ち、授業力向上のため研修の機会を持ったり、互いに切磋琢磨できるようにする。 ・「聞く力」「書く力」「話す力」を付けるため、各学年に応じた目標を達成できるように取り組む。 ・個別最適な学びができるように、子供たち自身がきちんと目標を定め、それに向けて努力できるように教師が助言、指導を行えるようにする。 ・算数では、問題解決型の授業で意見を出し合い、よい解決方法を考えるような授業を充実させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分自身も周りの人も大切」と考えられるよう、学校教育全体を通して、人を大切にする教育を行う。 ・スマートフォンやパソコンを使うにあたっての責任と、それを使用することによって起こる様々なトラブルについて、児童、保護者どちらも学習していかなければならない。 ・集団で生活するためにはルールやマナーがあり、それをみんなが守るから、楽しく快適に過ごせるといことを繰り返し指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ではほとんどの児童が朝ごはんを食べてきている。引き続き、この良い習慣を維持していきたい。体を動かす等、丈夫な体作りにも引き続き取り組んでいきたい。 ・夜遅くまで起きている児童や、スマートフォンやゲームの時間が長い児童がいる。体への影響を伝え正しい使い方ができるように、児童への指導と保護者への呼びかけが必要である。 ・大きな地震、大雨などの災害の体制をより詳しくシミュレーションして保護者にも伝えておかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類になって、ずいぶん活動の幅が広がった。運動会をはじめ学校の行事に参加していただけるよう呼び掛けたい。 ・地域教材を活用し、そのことについてお話していただいたり、指導していただけるような機会を設けたい。 ・図書ボランティアさんが、今年度生き生きと活動してくださってとても助かった。昔遊び、ミンなど今後子供たちの様々なことを指導していただけるよう計画したい。

3 その他の課題

・新型コロナウイルス感染症が、今年度2類から5類になり、少しずつコロナ以前の生活に戻ってきている。学校においてはすべての行事をコロナ以前に戻すのではなく、精選し必要な戻し方をしている。今年度は、人数制限のない参観、運動会、創立150周年おめでとう集会など、保護者の皆様、地域の皆様をお招きする機会が多くなった。今後さらに協力いただきながら、どんな取り組みができるのかを考えていく必要がある。

・西和佐小学校区は、国の特別史跡である紀伊風土記の丘、JA、納豆の会社「豆紀」、「玉林園」、和歌山線「田井ノ瀬駅」、豊かな自然等たくさん素材があると考えている。その素材を今年度においては十分活用できていないと反省している。今後、うまく活用して総合的な学習などで取り組んでいきたい。